

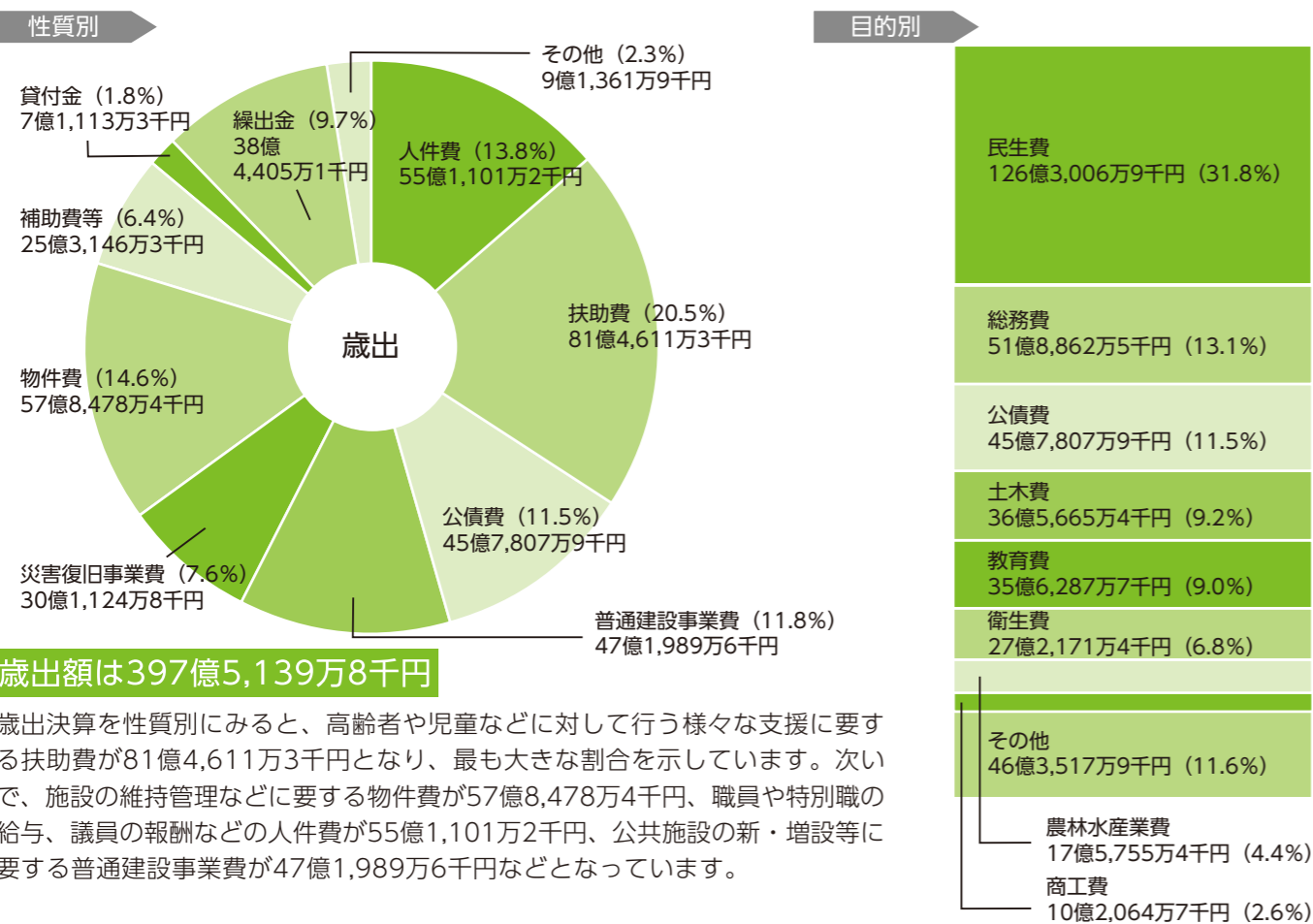
市民の皆さんに納めていただいた税金のほか、国・県からの支出金などがどれくらい入り（歳入）、どのような事業にどれくらい使われたのか（歳出）、市の財政状況をお知らせします。

左図に過去3年の決算の推移を表しています。令和元年度の決算は、歳入総額408億7,877万6千円、歳出総額397億5,139万8千円となりました。歳出は、普通建設事業費が、前年に比べ約13億円の増額となっていますが、基金等の活用による健全な財政運営に努めました。

# 市の財政状況をお知らせします

財政課財政係 ☎ 8634 (市役所4階)

## 一般会計 歳出



### 歳出額は397億5,139万8千円

歳出決算を性質別にみると、高齢者や児童などに対して行う様々な支援に要する扶助費が81億4,611万3千円となり、最も大きな割合を示しています。次いで、施設の維持管理などに要する物件費が57億8,478万4千円、職員や特別職の給与、議員の報酬などの人件費が55億1,101万2千円、公共施設の新・増設等に要する普通建設事業費が47億1,989万6千円などとなっています。

## 一般会計 歳入

### 歳入額は408億7,877万6千円

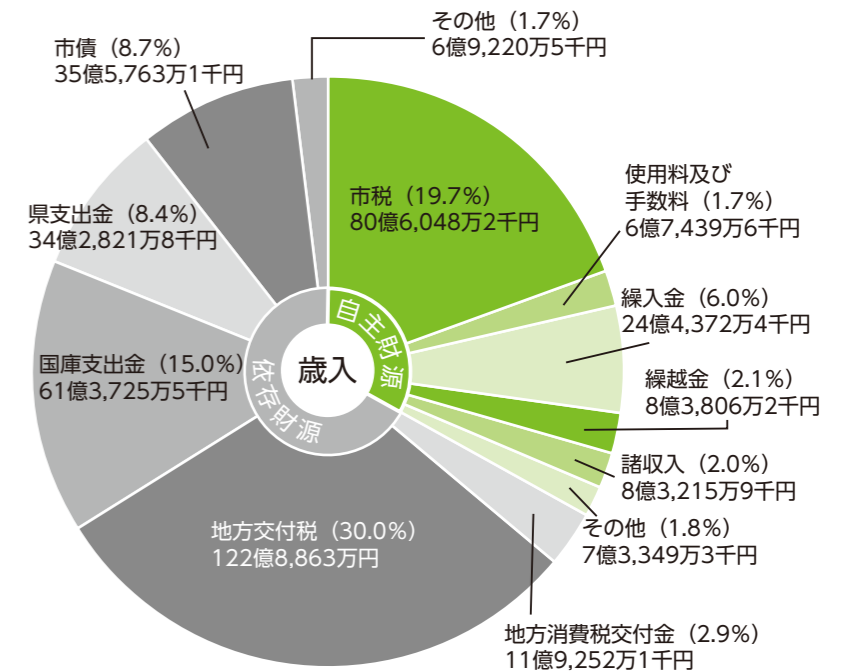
市に入った令和元年度の一般会計の歳入は408億7,877万6千円でした。その内訳は、国や県に頼った依存財源が66.7%、市で賄う自主財源が33.3%となっています。

皆さんから納めていただいた市税は歳入総額の19.7%を占め、80億6,048万2千円となり、国からの地方交付税は122億8,863万円と歳入全体の30.0%を占めています。

**依存財源と自主財源**

依存財源とは、地方交付税などのように国や県等に頼った財源のことをいいます。

自主財源とは、市税や使用料・手数料などにより市が自主的に収入することができるもので、自主財源の割合が高ければ高いほど、その使途の決定において自主性が高いといえます。



### 用語説明

・一般会計：地方公共団体の会計のうち基本的・全般的な経費を計上する会計

・特別会計：特定事業に限定した収支を経理する会計

### 【歳入】

・市税：市民税、固定資産税、たばこ税、軽自動車税などの税金

・地方交付税：市町村が等しく事業を遂行できるように、国から交付されるお金

・地方譲与税：国が徴収した自動車重量税等から市に配分され、交付されるお金

・分担金及び負担金：地方公共団体等の事業で利益を受ける人に負担してもらったお金

・国・県支出金：市町村が行う特定の事業に対して国又は県から交付されるお金

・市債：市の借入金で償還が1年を超えて行われるもの

・繰入金：基金として積み立てたお金を取り崩して収入とするお金

### 【歳出】

・性質別

・人件費：職員や特別職の給与、議員の報酬など

・扶助費：高齢者や児童などに対して行う様々な支援に必要な経費

・公債費：事業を行うために借りたお金（市債）の返済（元金・利子）などの経費

・普通建設事業費：学校や施設、道路の新・増設などに要する経費

・物件費：賃金、旅費、施設の維持管理などに要する経費

・補助費等：補助金の交付や負担金の拠出に必要な経費

・災害復旧事業費：土砂崩れなど、災害が起きた所の原状復帰のための経費

### 目的別

・総務費：行政全般の事務などに関する経費

・民生費：障がいのある人、高齢者に対する福祉の充実や子育て支援などの経費

・衛生費：環境保全、疾病予防、健康増進などの経費

・農林水産業費：農林水産業振興のための支援や生産基盤整備などの経費

・商工費：商工業や観光の振興のための経費

・土木費：道路や河川、公園、施設建設のための経費

・教育費：小・中学校、社会教育施設、体育施設などの建設・整備・運営維持管理に要する経費

### 特別会計



特定の事業を行うために一般会計と区別して設置している特別会計は、全ての会計区分において黒字又は歳入歳出同額決算となりました。

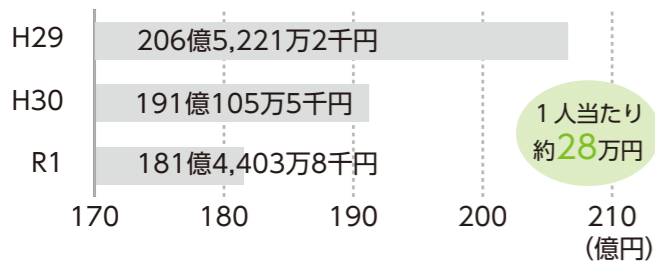
会計区分	歳入	歳出
国民健康保険	86億5,052万9千円	83億2,259万6千円
後期高齢者医療	8億7,672万6千円	8億7,507万4千円
介護保険	70億5,195万4千円	69億1,483万6千円
診療所事業	1億3,689万9千円	1億3,689万9千円
簡易水道事業	5億206万7千円	5億8万円
給水施設事業	1,616万9千円	1,612万9千円
特定環境保全公共下水道事業	4,249万9千円	4,217万円
農業集落排水事業	2億590万円	2億526万3千円
住宅新築資金等貸付事業	187万9千円	187万9千円
情報センター事業	6億8,135万3千円	6億8,109万7千円
合計	181億6,597万5千円	176億9,602万3千円

### 市税の収入状況

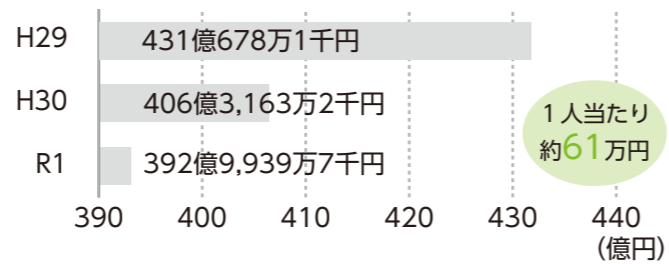
市民1人当たりの額は、令和2年3月31日現在の人口64,356人で算出しています。  
※端数処理のため、合計と内訳は一致しません。

税目別	予算現額	調定額	収入額	市民1人当たり
市民税	29億6,468万5千円	30億8,024万5千円	30億5,222万2千円	4万6,697円
固定資産税	37億2,278万6千円	40億2,045万9千円	38億7,609万9千円	6万2,229円
軽自動車税	2億3,663万3千円	2億4,721万6千円	2億3,983万3千円	3,727円
市たばこ税	4億6,996万5千円	4億6,298万4千円	4億6,298万4千円	7,194円
入湯税	4,445万9千円	3,739万3千円	3,704万2千円	576円
都市計画税	4億3,319万7千円	4億5,640万1千円	4億3,930万2千円	6,826円
合計	78億7,172万5千円	83億469万8千円	80億6,048万2千円	12万5,248円

### 基金残高 (全ての基金)



### 地方債残高



### 水道・下水道事業 平成31年4月1日～令和2年3月31日

水道事業	執行額	給水人口	配水量	1日最大	1日平均	1人1日	総有収水量	有収率
収益的収入	9億4,933万8千円			配水量	配水量	最大配水量		
収益的支出	8億3,357万1千円	48,426人	5,122,952m <sup>3</sup>	15,718m <sup>3</sup>	14,035m <sup>3</sup>	325ℓ	4,588,344m <sup>3</sup>	89.56%
資本的収入	1億2,900万3千円							
資本的支出	4億156万6千円							

下水道事業	執行額	整備済面積	処理区域内人口	水洗化人口	水洗化率
収益的収入	18億5,536万1千円				
収益的支出	18億3,058万3千円	1,233.5ha	45,603人	41,337人	90.6%
資本的収入	9億623万1千円				
資本的支出	13億1,899万6千円				

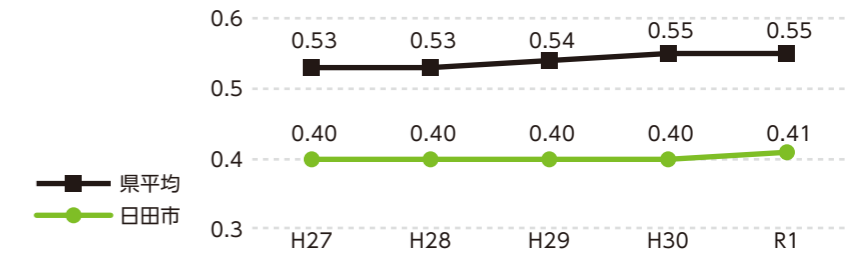
☎ 財政課財政係 ☎ 8 6 3 4 (市役所4階)

財政が良好かどうかを判断する基準となる以下の数値を見てください。

### 財政力指数 3年平均

地方税など自治体の標準的な収入で合理的に行政運営を行った場合にどこまで必要経費が賄えるかを測定する指標です。この指標は数値が高いほど財源に余裕があるとされています。

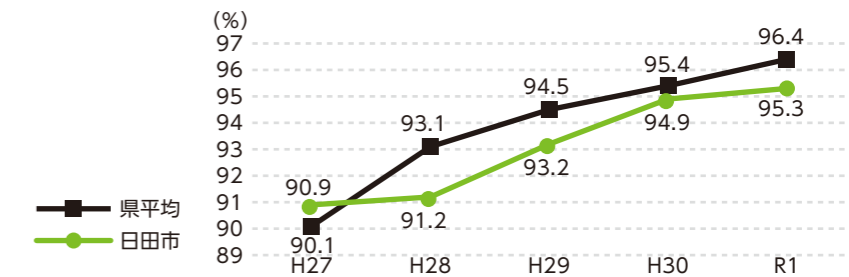
令和元年度は**0.41**  
(前年度 0.40)



### 経常収支比率

毎年決まって入ってくるお金（地方税、普通交付税など）が、毎年決まって出ていくお金（人件費、借金の返済など）に、どの程度充てられるかを示す指標です。この比率が低いほど財政構造が弾力性に富んでいるとされています。

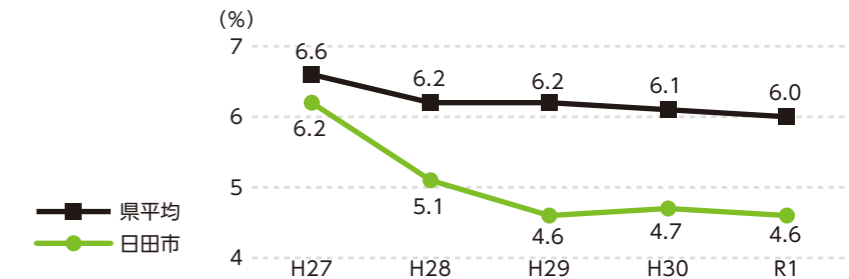
令和元年度は**95.3%**  
(前年度 94.9%)



### 実質公債費比率

借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさを、財政規模に対する割合で表した健全化判断比率（※）の一つです。この比率が18%以上となる地方自治体は、地方債を発行するときに国の許可が必要になります。

令和元年度は**4.6%**  
(前年度 4.7%)



(※) 健全化判断比率には、実質公債費比率の他に、実質赤字比率、連結実質赤字比率、将来負担比率、資金不足比率がありますが、いずれも比率が生じておらず、健全な状態です。



県内市町村の状況は大分県ホームページ「市町村財政のすがた」から見るができます。

**用語説明**  
 ・健全化判断比率：財政が良好かどうか判断できる指標。財政破綻を防止し、早期に健全化を図ることを目的としているもの  
 ・実質赤字比率：財政運営の悪化の度合いを示す比率  
 ・連結実質赤字比率：全ての会計を合算し、市全体の財政運営の度合いを示す比率  
 ・将来負担比率：将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示す比率  
 ・資金不足比率：公営企業ごとの資金不足額の事業規模に対する比率